

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25年度	交付対象事業費	24,826
市町村名	相馬市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

遊具が設置されている市内公園における遊具の更新を実施し、運動機能の低下が著しい子どもの運動機会の確保を図り、原発事故以前より、相馬市の児童の肥満児童割合の減少及び体力向上を目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世代等が、安心して運動・遊びを行わせることができる環境を整備し、さらに運動機会の確保を図り、相馬市の児童の原発事故前以上の体力向上に寄与することを目指すため、遊具が設置されている市内公園における遊具整備を行う。

- ・川沼西公園 既存の複合遊具、鉄棒、ブランコ、コイルトンネル、コイルジャングルの撤去及び設置
- ・坪ヶ迫東公園 既存のローラースペリ台、鉄棒、ブランコの撤去及び設置
- ・刈敷田東公園 既存のブランコ、スベリ台ダブル、鉄棒、丸太ステップの撤去及び設置

(2) 事業の実施状況

○工期 平成25年12月～平成26年3月(供用開始:平成26年4月)

○運営状況 365日24時間利用可能・利用料金無料

○利用状況 平成25年度に実施した3公園の遊具更新を実施したことにより、整備した3公園の従前の年間延べ約16,600人だった利用者が、対比120%の年間延べ約20,000人の利用者増加が見られた。

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

○避難者数

市内避難者数は、平成24年10月時点において1,204人(相馬市市民課・社会福祉課調べ)であったが、平成29年10月時点においては、418人(社会福祉課調べ)となっており、避難者数については、減少している。

○肥満傾向

市内小学生の肥満児童の割合が平成24年度が12.86%に対して、平成28年度は11.49%と、改善がみられた。(児童生徒の体格疾病統計資料集による)

○子どもの運動能力

市内小学生の体力テストの総合判定が「A」判定または「B」判定の割合が平成24年度が34.72%に対して、平成29年度は39.31%と、体力の向上がみられた。

(4) その他

平成29年8月24日に学識経験者等で構成される「相馬市外部評価委員会」にて、定住等緊急支援事業を含む公園遊具更新事業の取り組みについて意見聴取を行った(特段の意見はなし)



整備後の川沼西公園



整備後の坪ヶ迫東公園



整備後の刈敷田東公園

事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・事業実施した市内3公園において、ブランコなどの遊具更新による放射能の不安払拭や公園愛護会による利用促進活動により、親子ぐるみでの利用促進につながり、3公園の年間利用者数が約120%の増加につながった。
- ・公園遊具の更新や地域水泳プールの整備など、子ども達が安心して遊べる機会の確保により、市内小学校の肥満児童の割合の改善がみられた。(平成24年度:12.86% 平成28年度:11.49%)
- ・市内小学生を対象とした体力テストにおいても、総合判定が「A」または「B」の生徒の割合が増加している。(平成24年度:34.72% 平成29年度:39.31%)

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

公園利用に関するアンケートにより、子どもたちが屋外で活動するためには、遊具更新のみならず、芝生や放射線量の測定など、公園全体の原発事故への不安払拭への対策が求められているため、他の遊具更新と併せて、公園環境の整備に努め、かつ本事業の周知を行うことにより、公園の利用者増加につなげていきたい。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	44,601
市町村名	相馬市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-2

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

遊具が設置されている市内公園における遊具の更新を実施し、運動機能の低下が著しい子どもの運動機会の確保を図り、原発事故以前より、相馬市の児童の肥満児童割合の減少及び体力向上を目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世代等が、安心して運動・遊びを行わせることができる環境を整備し、さらに運動機会の確保を図り、相馬市の児童の原発事故前以上の体力向上に寄与することを図るため、遊具が設置されている市内公園における遊具整備を行う。

- ・高平公園 既存のブランコ2基、グローブジャングル1基、コイルジャングル1基の遊具更新
- ・高池前公園 既存のブランコ2基、鉄棒1基、チェーンネットジャングル1基、大型ローラー滑台1基、アニマル8基、平均台1基の遊具更新
- ・前沢目公園 既存のブランコ2基、コンビネーションネット1基の遊具更新

(2) 事業の実施状況

- 工期 平成26年9月～平成27年3月(供用開始:平成27年4月)
- 運営状況 365日24時間利用可能・利用料金無料
- 利用状況 平成26年度に実施した3公園の遊具更新を実施したことにより、整備した3公園における従前の年間延べ約8,400人だった利用者が、対比140%の年間延べ約12,000人の利用者増加が見られた。

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- 避難者数
市内避難者数は、平成24年10月時点において1,204人(相馬市市民課・社会福祉課調べ)であったが、平成29年10月時点においては、418人(社会福祉課調べ)となっており、避難者数については、減少している。

○肥満傾向

- ・市内小学生の肥満児童の割合が平成24年度が12.86%に対して、平成28年度は11.49%と、改善がみられた。(児童生徒の体格疾病統計資料集による)

○子どもの運動能力

- ・市内小学生の体力テストの総合判定が「A」判定または「B」判定の割合が平成24年度が34.72%に対して、平成29年度は39.31%と、体力の向上がみられた。

(4) その他

平成29年8月24日に学識経験者等で構成される「相馬市外部評価委員会」にて、定住等緊急支援事業を含む公園遊具更新事業の取り組みについて意見聴取を行った(特段の意見はなし)



整備後の高平公園



整備後の高池前公園



整備後の前沢目公園

事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・事業実施した市内3公園において、ブランコなどの遊具更新による放射能の不安払拭や公園愛護会による利用促進活動により、親子ぐるみでの利用促進につながり、3公園の年間利用者数が約120%の増加につながった。
- ・公園遊具の更新や地域水泳プールの整備など、子ども達が安心して遊べる機会の確保により、市内小学校の肥満児童の割合の改善がみられた。(平成24年度:12.86% 平成28年度:11.49%)
- ・市内小学生を対象とした体力テストにおいても、総合判定が「A」または「B」の生徒の割合が増加している。(平成24年度:34.72% 平成29年度:39.31%)

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

更新のみならず、放射線量の測定など、公園全体の原発事故への不安払拭への対策や、衛生面・利便性等の対策も併せて求められているため、他の遊具更新と併せて、公園環境の整備に努め、かつ本事業の周知を行うことにより、公園の利用者増加につなげていきたい。

(注1) 様式1(2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1(2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成27年度	交付対象事業費	38,581
市町村名	相馬市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-3

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

遊具が設置されている市内公園における遊具の更新を実施し、運動機能の低下が著しい子どもの運動機会の確保を図り、原発事故以前より、相馬市の児童の肥満児童割合の減少及び体力向上を目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

子育て世代等が、安心して運動・遊びを行わせることができる環境を整備し、さらに運動機会の確保を図り、相馬市の児童の原発事故前以上の体力向上を図ることを図るため、遊具が設置されている市内公園における遊具整備を行う。

- ・桜ヶ丘公園 既存のブランコ1基、グローブジャングル1基、ステップラダー1基、キュービックジャングル1基、滑り台1基、シーソー1基、鉄棒1基、はんとろ棒1基の遊具更新
- ・新町緑地 既存のグローブジャングル1基、滑り台1基、ステップ1基の遊具更新
- ・桜ヶ丘東公園 既存のブランコ1基、滑り台1基、シーソー1基、ジャングルジム1基の遊具更新
- ・沖ノ内公園 既存のグローブジャングル1基、滑り台1基、ブランコ1基の遊具更新
- ・角田公園 既存の滑り台1基、ブランコ1基の遊具更新
- ・刈敷田西公園 既存の滑り台1基、ブランコ1基の遊具更新

(2) 事業の実施状況

- 工期 平成27年9月～平成28年3月(供用開始:平成28年4月)
- 運営状況 365日24時間利用可能・利用料金無料
- 利用状況 平成27年度に実施した6公園の遊具更新を実施したことにより、整備した6公園における従前の年間延べ約18,000人だった利用者が、対比122%の年間延べ約22,000人の利用者増加が見られた。

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- 避難者数
市内避難者数は、平成24年10月時点において1,204人(相馬市市民課・社会福祉課調べ)であったが、平成29年10月時点においては、418人(社会福祉課調べ)となっており、避難者数については、減少している。

○肥満傾向

・市内小学生の肥満児童の割合が平成24年度が12.86%に対して、平成28年度は11.49%と、改善がみられた。(児童生徒の体格疾病統計資料集による)

○子どもの運動能力

・市内小学生の体力テストの総合判定が「A」判定または「B」判定の割合が平成24年度が34.72%に対して、平成29年度は39.31%と、体力の向上がみられた。

(4) その他

平成29年8月24日に学識経験者等で構成される「相馬市外部評価委員会」にて、定住等緊急支援事業を含む公園遊具更新事業の取り組みについて意見聴取を行った(特段の意見はなし)



整備後の沖ノ内公園



整備後の角田公園



整備後の桜ヶ丘公園

事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・事業実施した市内3公園において、ブランコなどの遊具更新による放射能の不安払拭や公園愛護会による利用促進活動により、親子ぐるみでの利用促進につながり、3公園の年間利用者数が約120%の増加につながった。
- ・公園遊具の更新や地域水泳プールの整備など、子ども達が安心して遊べる機会の確保により、市内小学校の肥満児童の割合の改善がみられた。(平成24年度:12.86% 平成28年度:11.49%)
- ・市内小学生を対象とした体力テストにおいても、総合判定が「A」または「B」の生徒の割合が増加している。(平成24年度:34.72% 平成29年度:39.31%)

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

公園利用に関するアンケートにより、子どもたちが屋外で活動するためには、遊具更新のみならず、芝生や放射線量の測定など、公園全体の原発事故への不安払拭への対策が求められているため、他の遊具更新と併せて、公園環境の整備に努め、かつ本事業の周知を行うことにより、公園の利用者増加につなげていきたい。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成27～28年度	交付対象事業費	953,586
市町村名	相馬市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-1、◆B-1-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

屋内地域水泳プールを整備し、各小学校で実施する体カテストにおいて、原発事故以前の水準までの回復を目指すとともに、体重増加に歯止めをかけることを目標とする。

【区域全体図】



【事業詳細】

(1) 事業概要

本市の子どもたちの原発事故前以上の体力向上を図るため、放射能を気にせず体力向上に繋がる全身運動である水泳活動が長期間できる屋内地域水泳プール及び駐車場を整備する。

- ・基幹事業(B-1-1) 屋内地域水泳プールの整備
- ・効果促進事業(◆B-1-1-1) 屋内地域水泳プールの整備にかかる外構工事(駐車場整備、フェンス設置、植栽等)

(2) 事業の実施状況

○工期 平成27年7月～平成29年3月(供用開始:平成29年5月)

○運営状況 5月～7月下旬、9月～10月 9時～16時まで

7月下旬～8月 9時～20時まで

○利用料金 一般 200円/回 高校生以下 100円/回 未就学児 無料

○利用状況 水泳教室の開催や学校授業における本施設の活用など利用促進を図っている。

施設一般利用者数

利用者数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
	171	644	2,978	2,388	610	111	6,902

(3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

○避難者数

市内避難者数は、平成24年10月時点において1,204人(相馬市市民課・社会福祉課調べ)であったが、平成29年10月時点においては、418人(社会福祉課調べ)となっており、避難者数については、減少している。

○肥満傾向

・市内小学生の肥満児童の割合が平成24年度が12.86%に対して、平成28年度は11.49%と、改善がみられた。(児童生徒の体格疾病統計資料集による)

○子どもの運動能力

・市内小学生の体カテストの総合判定が「A」判定または「B」判定の割合が平成24年度が34.72%に対して、平成29年度は39.31%と、体力の向上がみられた。

(4) その他

平成29年8月1日「[定例教育委員会]にて、本事業の取り組みについて意見聴取を行った(特段の意見はなし)



施設外観



オープニングセレモニー時の様子(H29.5.21)



事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・公園遊具の更新や地域水泳プールの整備など、子ども達が安心して遊べる機会の確保により、市内小学校の肥満児童の割合の改善がみられた。(平成24年度:12.86% 平成28年度:11.49%)
- ・市内小学生を対象とした体カテストにおいても、総合判定が「A」または「B」の生徒の割合が増加している。(平成24年度:34.72% 平成29年度:39.31%)

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

施設利用者の更なる増加、利活用促進を図るため、イベント開催時等には広報誌や市ホームページ等に掲載し、広く周知を図るとともに、施設の周知を図り、子どもたちの体力向上の場となるよう、今後とも魅力ある施設の運営に努めていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。